

とよひろ 豊博さん

わたなべ 渡辺

都留文科大学教授



中学1年生で狩野川の源流から一人でテントを担いで歩き、駿河湾、沼津まで流域調査をやったのけると、今度は富士山へと意欲がわいた。

夏休みの宿題で1週間かけて狩野川を歩き、川の石の大きさや形、森の変化を調査して、それらをまとめたものが、日本学生科学賞を受賞しました。南から北へと流れる狩野川の旅をきっかけとして、次に北から南へと下る富士山へと興味を向いて友達と2人で海から徒歩で上り下りました。当時、まだ富士講の歴史が根付いており、歩いていると「お札を買ってきてね」とお金をねじ込まれる。どんどんとお金が多まりすぎ、金額になりました。富士山信仰の根強さに驚きました。山頂でお札をもらい全員に届けて歩きました。



富士山でのバイオトイレ設置にも取り組んだ (2001年、中央が本人)

いる。それが富士山の本質的な価値だ」との評価でした。実際の富士山があまりに汚く危険な山であることも知っている。しかし、富士山があまりに普遍的な価値を有しているの、世界の山として評価し、日本の顔を立って登録してくれたのだと思います。世界遺産は富士山信仰への「過去の評価」であるのに、今の富士山が評価されたみたいには勘違い

中学生から登山70回以上、現状知り尽くす

観光客増え汚れた山にバイオトイレ

縦割りではダメ、法律で国が一元管理を

それ以来、富士山へは73回登っています。だから富士山もよく理解しています。ユネスコの世界遺産を審査する担当者を4日間、富士山の現場に案内したことがあります。その時の彼らの総合判断は、「類いまれな自然美がベースにある富士山。自然遺産の要素があり、その上に文化遺産があるので

して、もっと活用して金もうけをしよう、世界遺産になった趣旨がわい曲されている。現状は信仰の対象としての富士山ではなく、観光の富士山になっています。富士スバルラインや富士山スカイラインで簡単に5合目まで行けること、観光の山になってしまった。私は、この2つの道を廃道に

して昔のように歩いて登るような富士山に戻すべきだと強く思っています。現実には山梨県側でケーブルカーを敷設する計画が進んでいるなど保全とは逆行しています。

今年、富士山の開山期間が延びます。山梨県では、7月1日から8月26日までが9月14日まで。静岡県側が、7月10日から9月1日までが9月10日まで。山小屋の人は商売が長くできるので大喜びでしょう。昔から山小屋は8月の末に閉じました。雪が降ると凍結して危険になり、滑落事故も起きる。山にも環境負荷をかけるだけ

静岡県や山梨県が申請したものではありません。富士山が変わると思っています。富士山がうまくなれないのは、縦割りで文化庁や環境省、林野庁などそれぞれの法律が入り乱れ、その隙間に利害が絡んでいる。それを全部きちんと横断的に覆う「富士山立法」の制定をやるべきです。

ユネスコ(国連教育科学文化機関)関係者の最大の指摘は「管理の一元化」についての体制不備です。統一された管理基本計画がありません。海外の世界遺産地区では、管理者の一元化が入山料徴収の前提条件です。様々な管理者の思惑が交錯して一本化していない富士山で、その実効性があがるでしょうか。一元管理する「富士山庁」の設置が必要不可欠です。